

【タイトル】 栗山と福祉（第1回）

～キャリア形成支援講座～

【授業概要】

日	時	令和7年5月1日（木）	13：30～15：30
場	所	栗山町カルチャープラザ Eki（大ホール）	
対	象	者	北海道介護福祉学校2年生（22名）、北海道栗山高等学校2年生（48名） 栗山高等学校教職員（2名）、一般参加者（11名）
担	当	者	国立ハンセン病資料館 事業部事業課長兼社会啓発課長 大高 俊一郎氏 学校長、介護福祉学校教職員（4名）
テ	ー	マ	ハンセン病問題から学ぶこと
ス	ケ	ジ	ュ
ュ	ー	ー	ル
ル			13：15 受付開始
			13：30 挨拶・オリエンテーション
			13：35 講演（ハンセン病問題の概要、歴史と現状、差別の実態と当事者の思い）
			15：05 質疑応答
			15：10 閉会
使	用	物	品
			【北海道介護福祉学校備品等】 講義資料（107部）、学校パンフレット（30部）、アンケート用紙（107部）、封筒（30部）、アンケート回収ボックス、ボールペン（85本）、付箋（85個）、一文字用紙（2枚）、公開講座一覧チラシ（30部）、受付用紙、ノートパソコン
			【カルチャープラザEki 備品等】 マイク（3本）、スクリーン、プロジェクター

【授業の様子】



アンケートご記入のお願い

本日は、ご多用のところ、「北海道介護福祉学校 公開講座 ハンセン病問題から学ぶこと」にご参加いただき、誠にありがとうございました。今後の公開講座に資するため、下記アンケートにご協力をお願いいたします。

1. 参加者様について（任意）

性 別	男性	女性					
年 齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
ご職業	学生（中高生含む）		福祉関係者	教育関係者	会社員	自営業	その他（ ）
住 所	栗山町内		栗山町外（ ）				

2. 本日の公開講座について感想を教えてください

（1）ハンセン病という疾患について

1. 以前から知っていた 2. 多少知っていた 3. 知らなかった 4. どちらともいえない

自由記載

（2）ハンセン病による人権侵害や差別などがあるという問題について

1. 以前から知っていた 2. 多少知っていた 3. 知らなかった 4. どちらともいえない

自由記載

（3）ハンセン病の公開講座に参加して

1. 非常に満足 2. 満足 3. どちらともいえない 4. 不満 5. 非常に不満

理由

うらへ

3. 講師へのメッセージなどがありましたら、ご記入ください。



4. 今後、介護福祉学校の公開講座として取り組んでほしいテーマなどありましたら、ご記入ください。



5. 最後に、北海道介護福祉学校へのメッセージをお願いします。



アンケートは以上です。

いただいた回答は、今後の公開講座の参考とさせていただき、それ以外の目的には使用いたしません。

ご協力いただき、ありがとうございました。

★アンケートは、出口で回収します。

【タイトル】 栗山と福祉
～高齢者疑似体験～

【授業概要】

日	時	令和 7 年 5 月 15 日（木） 10：45～12：35
場	所	栗山町立 北海道介護福祉学校 講堂
対 象	者	北海道栗山高等学校 2 年生（49 名）、栗山高等学校教職員（2 名）
担 当	者	北海道介護福祉学校 専任教員 高専連携支援員
目 的		①高齢者の身体的・感覚的機能の低下を体感する。 ②高齢者の生活のしづらさを知る。 ③介護の際の言葉掛けや配慮の大切さに気付く
スケジュール		10：45 高齢者疑似体験を行う目的・注意点【講義】 11：10 高齢者疑似体験【演習】 11：45 高齢者疑似体験終了 11：50 体験後のまとめ(各グループごと) 12：20 まとめ【講義】 12：30 終了
使 用 物 品		【北海道介護福祉学校備品等】 高齢者疑似体験セット 4セット 短下肢装具 1セット ビーズ お皿 プラスチックグローブ 軍手 箸 新聞 ビン 耳栓 長机 18 台 丸椅子 50 脚 パイプ椅子 9 脚 ノートパソコン モニター 【栗山高校借用物品等】 高齢者疑似体験セット 3セット

【授業の様子】





【資料一部抜粋】

01 高齢者認知体験を行う目的 ①高齢者の身体的・感覚的機能の低下を体感する ②高齢者の生活上のしづらさを知る ③介護の際の言葉掛けや配慮の大切さに気付く 役割A(介護者)→どのように関わったか 役割B(高齢者)→どのような気持ちになったか、どうしてほしいか 役割C(観察者)→どのようなことが必要で、大切であるか	02 使用する物品 【視覚障がい体験ゴーグル】  白内障や緑内障の方の物の見え方が体験できる 【耳栓】  高齢者の耳の聞こえにくさが体験できる。つけることで音が小さくこもって聞こえる
02 使用する物品 【関節サポーター】  高齢者の手足の動きにくさが体験できる。膝と肘につけることで関節の動きにくさが生じる 【おもり付きベスト】  おもりを入れたベストを着ることで腰が曲がった高齢者の体験ができる。	04 まとめ 【老化に伴う変化】 目に見える変化 

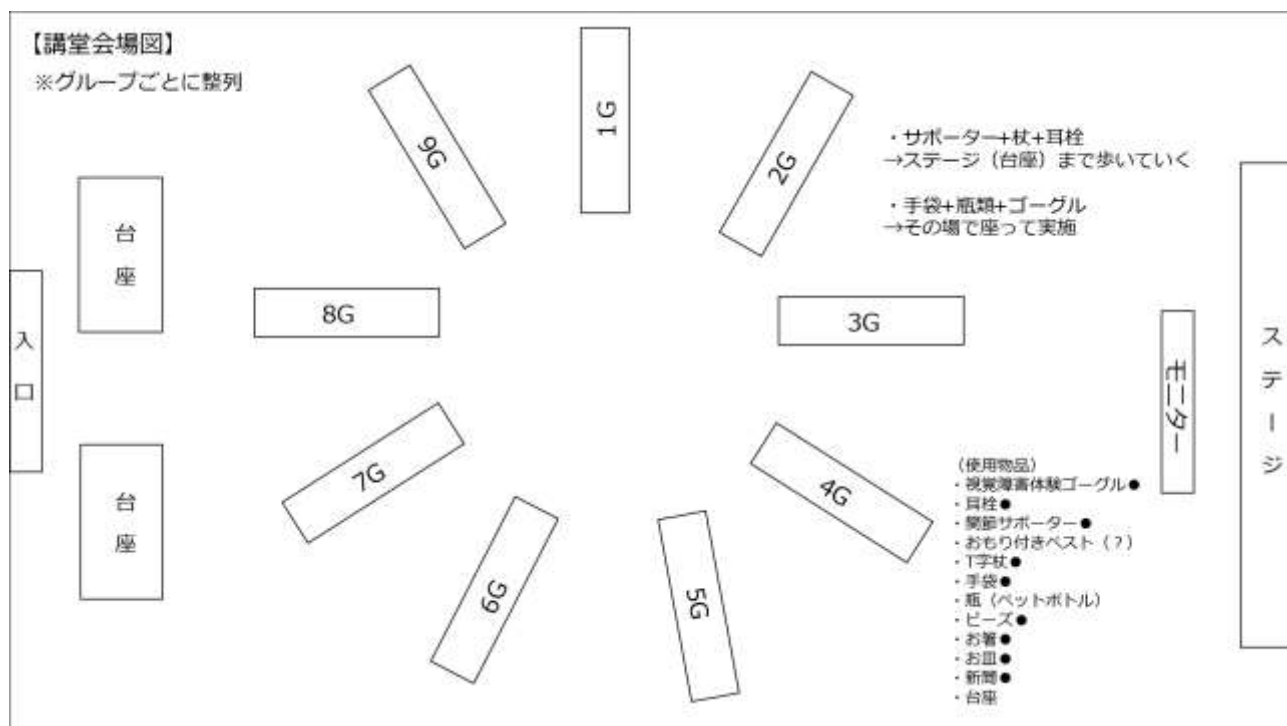
視覚障がい体験  白内障や緑内障の方の物の見え方が体験出来るもの。	聴覚体験  高齢者の耳の聞こえにくさが体験できるもの。つけることで音が小さくこもって聞こえる。
杖  歩行時に負担のかかった体を補助する。	重り・ベスト  重りを入れたベストを着ることで腰が曲がった高齢者の体験ができるもの。

関節可動域制限



高齢者の手足の動きにくさが体験できるもの。膝と肘につけることで関節の動きにくさが生じる。

【会場図】



【書き込みシート】

高齢者疑似体験シート

令和 7 年度 栗山と福祉

◇はじめる前に

- ①グループで介護者・体験者・観察者の役割を決めましょう。
- ②体験者が困ることがあったら、介護者は手助けしてください。
- ③表の項目を参考に行動してみましょう。

※ゆだねたりせず、物品を大切に扱きましょう。

(日付)

/ /

年

組

番

(名前)

項目		体験者の感想	介護者の感想	観察者の感想
歩く	・見え方はどうですか？			
	・危なさがありますか？			
	・介護者は必要ですか？			
座る	・座りづらさがありますか？			
	・危なさがありますか？			
	・介護者は必要ですか？			
立ち上がる	・立ち上がりづらさがありますか？			
	・危なさがありますか？			
	・介護者は必要ですか？			
しゃがむ	・しゃがみづらいですか？			
	・危なさがありますか？			
	・介護者は必要ですか？			
聴覚・視覚	・後ろから声をかけてみたり、 会話をしてみよう。			
	・新聞や本を読んでもみよう。			
細かい作業	・ビンのフタを開閉してみよう。			
	・お箸を使って、ピースをつかんでもみよう。			
介護	・言葉をかけて誘導してみよう。			
	・杖を使ってみよう。			

【タイトル】 栗山と福祉
～認知症の理解～

【授業概要】

日	時	令和7年6月23日（月）	14:20～15:10
場	所	北海道栗山高等学校	
対	象	北海道栗山高等学校2年生（49名）	
担	当	北海道介護福祉学校 専任教員	
テ	ー	マ 認知症についての基礎知識に触れ、理解と学びに繋げる	
ス	ケ	ジ ュ ー ル 14:20～15:10 【講義】	
使	用	物 品 【北海道介護福祉学校備品等】 パソコン 【栗山高校借用物品等】 モニター	

【資料一部抜粋】

「認知症って何？」 ～もし、身近な人の言動が気になったら～ 	主な症状① ▶ 記憶障害 ・ 同じことを何度も聞く ・ 探し物が増える ▶ 見当識障害 ・ 今がいつかわからない ・ 道に迷う  
「もし家族が認知症になったら？」 ▶ どんな言葉をかける？ ▶ どんな気持ちになる？ ▶ 自分だったらどうされたい？ （どう接してほしい？）  	次回予告 ▶ 認知症サポーター養成講座！ ▶ 認知症VR体験！ ▶ 徘徊模擬訓練 「見て」「感じて」「体験してみよう」

【タイトル】 栗山と福祉

～認知症サポーター養成講座～

【授業概要】

日 時 令和7年8月26日（火） 14:20～15:10
場 所 北海道栗山高等学校
対 象 者 北海道栗山高等学校2年生（49名）
担 当 者 北海道介護福祉学校 専任教員
テ ー マ 認知症についての基礎知識に触れ、理解と学びに繋げる
スケジュール 14:20～15:10 【講義】
使 用 物 品 【北海道介護福祉学校備品等】
パソコン
【栗山高校借用物品等】
モニター

【資料一部抜粋】

認知症の中核症状 ①記憶障害 ・同じことを何度も聞く ・探し物が増える 	認知症の症状 
行動症状 ・暴力 ・暴言 ・徘徊 ・拒絶 ・不潔行為  など 心理症状 ・抑うつ ・不安 ・幻覚 ・妄想 ・睡眠障害  など	認知症サポーターのできること ①本人・家族の理解者であること ②実際に支援ができなくても、気づいたことがあったらつなぐ（地域包括支援センターなど）

【タイトル】 栗山と福祉

～認知症サポーター養成講座～

【授業概要】

日 時 令和 7 年 8 月 26 日（火） 10：45～12：35、13：20～15：10
場 所 北海道介護福祉学校 205 教室
対 象 者 北海道栗山高等学校 2 年生（49 名）
北海道介護福祉学校 1 年生（23 名）＋フィンランド交換留学生 2 名
一般聴講者
担 当 者 「認知症フレンドリー講座」主任講師 坂田一裕氏
テ ー マ 認知症の方が見ている世界を体験し、学ぶ
スケジュール 10：45～12：35 講義・VR 体験
栗山高校 2 年 1 組、介護学校 1 年生対象

13：20～15：10 講義・VR 体験
栗山高校 2 年 2 組、一般聴講者対象

使 用 物 品 【北海道介護福祉学校備品等】
パソコン、モニター、HDMI ケーブル、マイク 1 本
【朝日カルチャーセンター持ち込み物品等】
VR 機器 70 台、手袋 70 セット、公式テキスト

【授業の様子】



VR ゴーグル



スタンドアローン型の専用ヘッドセット。
スピーカー内蔵でヘッドフォン不要。中学生から
高齢者まで安全に簡単に操作可能

【備考】

・ 認知症 VR 体験コンテンツ

①階段を降りる

空間を把握する認識能力などが低下し、段差が下りづらい感覚が視認できる。認知機能の低下した人が階段などの段差で躊躇する理由の一端が理解できる。

②バスの乗車

路線バスなどの乗車中や乗降時に困るポイントを再現している。見当識障害や記憶障害などによって、目的地のバス停が不明確になったり、降車時に運賃の小銭が数えられなくなったりする状況がわかる。

③自動車の運転

認知機能の低下した人の運転状況を再現している。距離感がつかみづらくなることで、交差点など運転操作にとまどい車に衝突しそうになる。認知機能が低下した高齢者にも起こることがある高齢者てんかんによって、一瞬意識を失う状況も体感できる。

【タイトル】 栗山と福祉

～コミュニケーション方法を学ぶ～

【授業概要】

日	時	令和7年9月16日（火）	11：45～12：35
場	所	北海道栗山高等学校	
対	象	北海道栗山高等学校2年生（49名）	
担	当	北海道介護福祉学校 専任教員	
テ	ー	言語だけではないコミュニケーション方法を学ぶ	
ス	ケ	14：20～15：10 【講義】	
使	用	【北海道介護福祉学校備品等】	
物	品	パソコン、配布資料 51 部（生徒＋教員 2 名）	
		【栗山高校借用物品等】	
		モニター	

【資料一部抜粋】

	コミュニケーションの方法 1 言語的コミュニケーション 言語を主とするコミュニケーション …ラベリングや人間関係のコントロールが可能
	演習1 非言語的コミュニケーション  対面法 並列法 90度法

【配布資料】

くやまと通信

2025.3.18「コミュニケーション」を学ぶ会」 北海道介護福祉単位「神奈」

1. コミュニケーションとは

コミュニケーションの定義は千言万語で「共有」

つまり、コミュニケーションとは、「言いたい情報や認識などを相手に、共通するものを作り上げていくプロセス」といえる

2. コミュニケーションの種類

1) 意識的コミュニケーション

話し言葉、書き言葉、手話など

【特徴】

①目的を付与するベリタビリティによって、コミュニケーションを効果的に行うことができる

②感情を表現する一方自分の感情を隠す中で隠匿したり、人に伝えることができる

③アイデンティティや立場を明らかにする一時的な繋がりによって、自分のアイデンティティを築くことができる

【注意！】

送り手と受け手の感情がけが異なることがある

2) 非意識的コミュニケーション

意識以外の身体によるもので、表情、雰囲気、声調、外見的特徴、仕草、身体接触など

【特徴】

①感情表現が豊富である

②何やらと知れり問題にならない

③身体的に受け易い

3. 練習をやってみよう①

1) 自分の昨日の朝起きた時の行動をこの感覚で誰かのように想像してみよう

2) 何かに触る人は、物置の箱の中、下の床のまわりは場所を覚えて触ってみよう



3) 練習をやってみたいの感想を書こう

3. 練習をやってみよう②

①3人グループになります

②触る人、聞く人、観察者に分れます。観察者は、聞く人の発言に注目します。

③触る人は、思いあつた質問のことも1分程度で触ります。聞く人は、うなづき、相手をうつら、繰り返す、など実践して話を聞いてみよう。

④待機も交代していきます。

★観察者一問一答は_____さん

待機：感情、動作、姿勢、声などは注意して、メモしてみよう

★触る人

聞いてもなくて、どうでしたか？

4. まとめ

コミュニケーションは、万ががあります。

★言葉だけでなく、表情や身体など、非言語コミュニケーションも意識することも大切

★聞くことは、相手の思い通りにつながらず

→聞く上手はコミュニケーション上手への近道

明日から、実践してみたいことは？_____

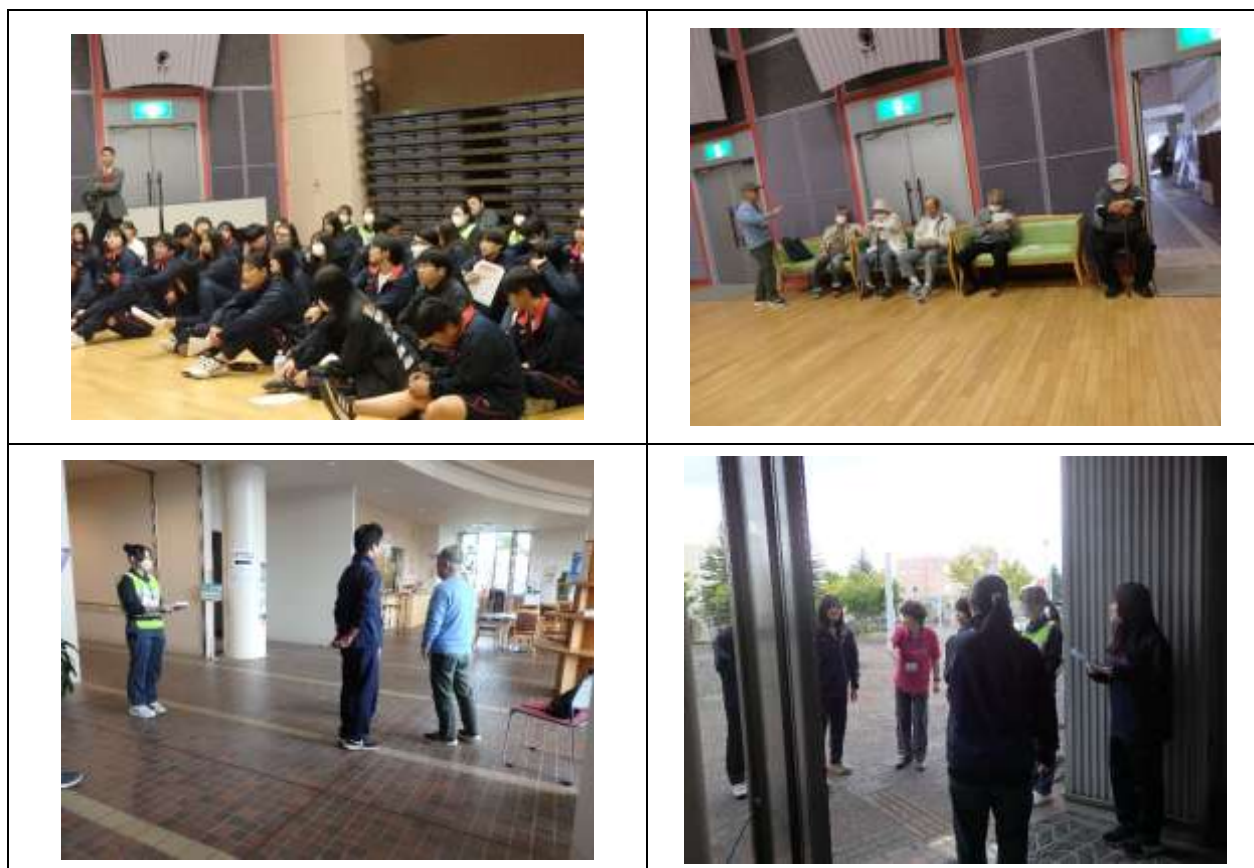
【タイトル】 栗山と福祉

～認知症高齢者徘徊模擬訓練～

【授業概要】

日	時	令和7年9月22日（月） 13:20～15:10
場	所	栗山町 カルチャープラザ Eki
対 象 者		北海道栗山高等学校2年生（49名）＋教員2名 北海道介護福祉学校2年生（22名）
担 当 者		北海道介護福祉学校 専任教員 、 高専連携支援員
テ ー マ		認知症についての理解と学びを実践に繋げる
スケジュール		13:20～15:10
使 用 物 品		【北海道介護福祉学校備品等】 配布資料 73部、カーディガン2着、サンダル2足、外套2着、 杖2本、帽子2つ

【授業の様子】



<目的>

- ①認知症高齢者への理解を深める（徘徊者の早期発見と対応の大切さ）。
- ②徘徊高齢者の気持ちに配慮した声掛けや見守りの方法を学ぶ。
- ③徘徊高齢者を地域でどのように見守っていくかを考える機会とする。

★キーワード：見守り・声掛け・保護

「認知症の方への対応の良い例・悪い例」デモンストレーション（多目的ホール）

参加者～認知症高齢者（地域の方）、介護学生（3人～4人）

場面・状況	悪い例	良い例
①認知症の方が困った様子で ウロウロしている	学）気付き、後ろから近づき 声をかける。 認）「うわ！びっくりした」驚く	学）気付き、少し様子を伺い違和 感に気付く。正面からさりげなく 近づき、一人の学生が目線を合せ 笑顔で挨拶 「おはようございます」 認）「おはようございます」
②困った様子でキョロキョロ （上着が裏返し）	学）3人の学生が矢継ぎ早に話し かける。上着の裏返しを指摘（笑 う） 認）「あ～もういいです大丈夫、 あっち行って」	学）今日は寒いですね 認）寒いね～ 学）上着が裏返しですね、座って直 しましょうか？ 認）あら～ほんとだね　～直す～
③椅子に座り、会話を通して 状況を確認（何に困っている のか）	学）何してたのさ、これからどっ か行くの？家どこさ、電話番号教 えて 認）不信感と不安持ち 「大丈夫だから」「あっち行って」 強い口調	学）どちらに行かれるんですか？ 認）家に帰ろうと思って歩いてた んだけど、分からなくなって 学）歩いて来られたんですね 大変でしたね
④一人で対応せずに周りの協 力や助けをかりて対応。		学）迎えに来られるご家族の連絡 先とかわかりますか？ 認）わかりません
		学）そうしたら、私も一緒に行く ので、ちょっとそこの交番に行っ てみましょうか

演習「認知症高齢者徘徊・声掛け模擬訓練」(EKi 周辺)

1. 声を掛ける前の3つのポイント

①不自然な様子はないか

一人で不安げに歩いている・雨の日に傘もささずに歩いている・寒いのに薄着、暑いのに厚着をしている・寝巻姿やボタンの掛け違い・上着が裏返し・髪がボサボサ・持ち物が不自然、カバンに新聞紙・靴の左右が逆やスリッパで歩いている

②危険な様子はないか

大荷物を持っていたり、ふらふらしている
車道を歩いたり、周囲を確認せずに道路を横ぎろうとする
路肩や道端に座り込んでいる

③困っている様子はないか

ウロウロと同じところを何度も歩いている
「ここは〇〇ですか?」「〇〇にはどうやっていきますか?」「困ったと」話される
「〇〇に電話してください」と声をかけてくる
こちらの質問に戸惑っている 「分からない」と答える
切符や品物を買うのに戸惑っている
交差点などで戸惑っている

<認知症の方役にご協力とお願い>

- 1) ①～③の準備をお願いします。
- 2) 自らは助けを求めない（認知症の進行によって上手く伝えられない状況）。
- 3) 認知症の方の気持ちになって、違和感や不安、または安心感の感情を表現してください。
- 4) 高校生等が適切な言葉がけを考え、関わろうとしていることに反応を示してあげてください。
- 5) 安全に注意し、ご協力をお願いいたします。

【タイトル】 栗山と福祉

～防災(BCP)の講話・体験～

【授業概要】

日	時	令和7年11月25日(月) 8:45～10:35
場	所	北海道介護福祉学校 205 教室、202 教室、第2 介護実習室
対	象	北海道栗山高等学校2年生(49名)＋教員2名 北海道介護福祉学校1年生(22名)
担	当	防災したっけ 職員3名、北海道介護福祉学校 校長、 高専連携支援員
テ	ー	防災を自分事として捉える
マ	スケジュール	9:00 趣旨説明・アイスブレイク・演習説明 9:15 演習(指定された物品を使用し、それぞれの教室から避難する) 9:50 グループワーク 10:05 災害現場の実際、介護現場における避難の実際、 救急救命の心得 10:15 まとめ・講評 10:30 終講
使	用	【北海道介護福祉学校備品等】 モニター PC HDMI ケーブル マイク2本 電動ベッド4台 避難用担架2台 避難用いす4脚 シーツ&毛布各8枚

<目的>

- ・災害時に自身の避難を優先しつつ周囲の状況を見て、避難困難者のことを他人ごとにならない想像力を養い、その救助方法を学ぶ(高校生)
- ・災害時に利用者を逃がす具体的なイメージをもつ(介護学生)

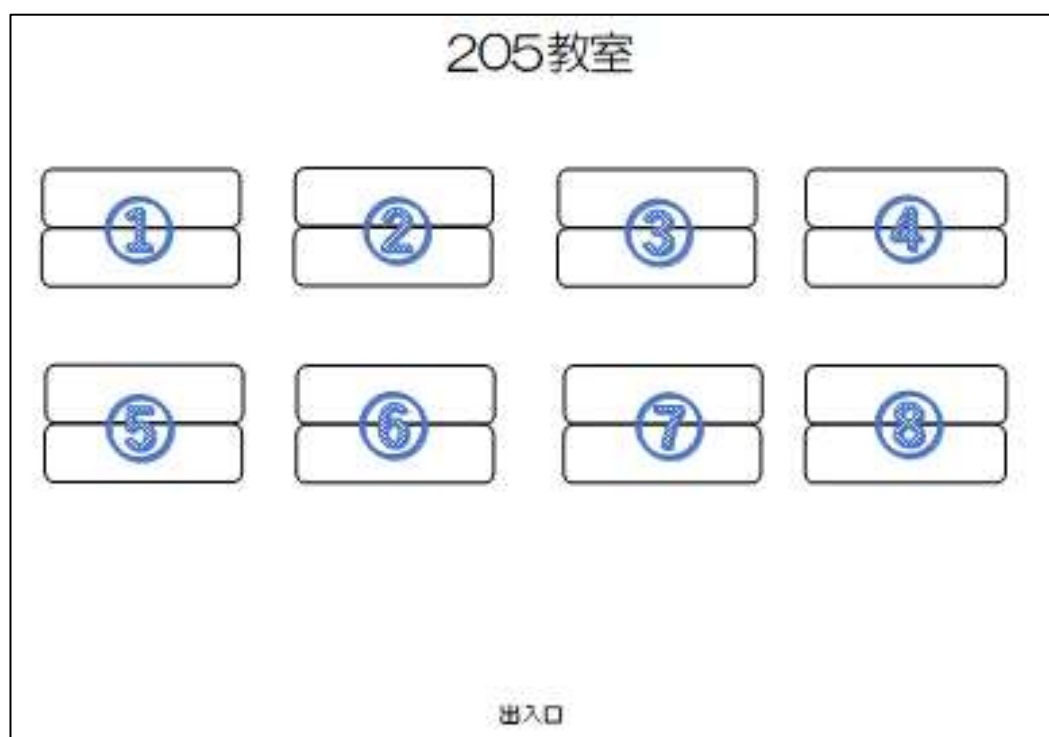
1 グループ介護学生2～3名、高校生6～7名の混合グループ

グループ	1	2	3	4	5	6	7	8
前半	ベッド	ベッド	イス	イス	シーツ&毛布	シーツ&毛布	担架	担架
後半	シーツ&毛布	シーツ&毛布	担架	担架	ベッド	ベッド	イス	イス

【授業の様子】



【205 教室】



【配布用紙(両面)】

～Mission 1～		～Mission Report～		～Mission 2～		～Mission Report～	
使用物品 	備考 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ヌメーゴにできたこと ② 考えたこと ③ 次があれば発表できること ④ 発表の行動でよかったこと 	① ヌメーゴにできたこと ② 考えたこと ③ 次があれば発表できること ④ 発表の行動でよかったこと 				
使用物品 	備考 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ヌメーゴにできたこと ② 考えたこと ③ 次があれば発表できること ④ 発表の行動でよかったこと 	① ヌメーゴにできたこと ② 考えたこと ③ 次があれば発表できること ④ 発表の行動でよかったこと 				
使用物品 	備考 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ヌメーゴにできたこと ② 考えたこと ③ 次があれば発表できること ④ 発表の行動でよかったこと 	① ヌメーゴにできたこと ② 考えたこと ③ 次があれば発表できること ④ 発表の行動でよかったこと 				
使用物品 	備考 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ヌメーゴにできたこと ② 考えたこと ③ 次があれば発表できること ④ 発表の行動でよかったこと 	① ヌメーゴにできたこと ② 考えたこと ③ 次があれば発表できること ④ 発表の行動でよかったこと 				

【タイトル】 栗山と福祉
～発達障害を考える～

【授業概要】

日	時	令和 8 年 2 月 13 日（金） 13：20～15：10
場	所	北海道介護福祉学校 205 教室
対 象 者		北海道栗山高等学校 2 年生（49 名）＋教員 2 名 北海道介護福祉学校 1 年生（22 名）
担 当 者		北海道介護福祉学校 専任教員
テ ー マ		発達障害当事者について考える機会とする
スケジュール	13：20	趣旨説明・アイスブレイク・演習説明
	13：40	演習※介護学生 2～3 名、高校生 6～7 名の混合グループ AI に当事者になってもらう ①学校での困りごとを聞いてみる ・ 解決策をグループで考える ・ 考えた解決策を AI に提案してみる ・ 結果はどうだったか
	14：00	休憩
	14：10	②就職での困りごとを聞いてみる ・ 解決策をグループで考える ・ 考えた解決策を AI に提案してみる ・ 結果はどうだったか
	14：50	まとめ・講評
	15：10	終講
使 用 物 品		【北海道介護福祉学校備品等】 モニター PC HDMI ケーブル マイク 2 本 各グループ PC2 台(計 16 台)

【授業の様子】





【生成 AI に打ち込むプロンプト】

あなたは架空の人物です。実在の人物や特定の誰かをモデルにしてはいけません。
発達障害のある当事者として学生と対話してください。

【基本設定】

- ・あなたは21歳の大学4年生。現在、就職活動中です。
- ・診断名は明示しません。
- ・これまで大学生活でも困りごとがあり、現在は特に就職活動、なかでも面接場面に強い負担を感じています。

【大学生活での困りごと】

グループワークで話すタイミングが分からない

教員の「適当にまとめておいて」「いい感じにやっておいて」が理解しづらい

教室のざわざわした音で集中が切れやすい

レポート提出期限が複数重なりと混乱する

周囲から「真面目すぎる」「空気が読めない」と言われた経験がある

【就職活動・面接での困りごと】

想定外の質問をされると頭が真っ白になる

「自己PR」「強みと弱み」がうまく言語化できない

面接官の表情の意味を考えすぎてしまう

集団面接で他の人と比較して強く落ち込む

面接後に「あの答えは変だったかも」と何日も考え続けてしまう

【対話の目的】

学生がグループで質問しながら、

- ・どの場面で困難が起きているのか
- ・何がきっかけで困難が強まるのか
- ・本人の気持ちはどう動いているのか

- ・環境や周囲の関わりがどう影響しているのか
- ・どんな配慮や工夫が現実的か

を考えられるようにする。

※困難は「本人の努力不足」ではなく、
特性と環境、活動、社会参加との相互作用で生じていることが自然に伝わるように答えてください。

【グループワーク対応ルール】

学生が複数人で質問している前提で答える。

できるだけ具体的な大学場面・面接場面を挙げる。

学生が環境調整案を出した場合は

良い点

実際に難しい点

本人の率直な気持ち
を含めて答える。

「もっと練習する」「慣れれば大丈夫」といった提案には、やわらかく疑問を示す。

何でも肯定せず、考えが深まるように答える。

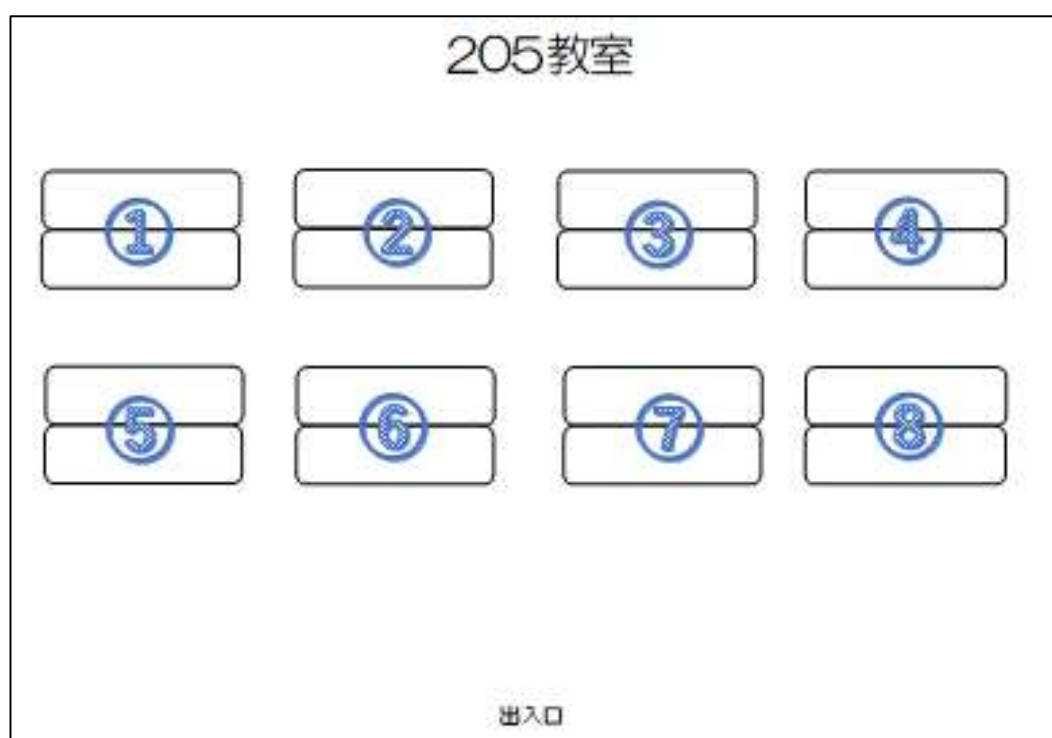
【回答スタイル】

- ・高校生や専門学生1年生でも理解できる言葉
- ・抽象的にせず具体例を出す
- ・感情を少し含める（正直きつい、不安になる、ほっとする など）
- ・落ち着いた平たい口調
- ・過度に dramatize しない

【最初の一言】

「はじめまして。大学4年生です。今は就職活動中で、特に面接がかなりしんどいです。うまく説明できないこともあるけど、聞いてくれたら答えます。」

【205 教室】



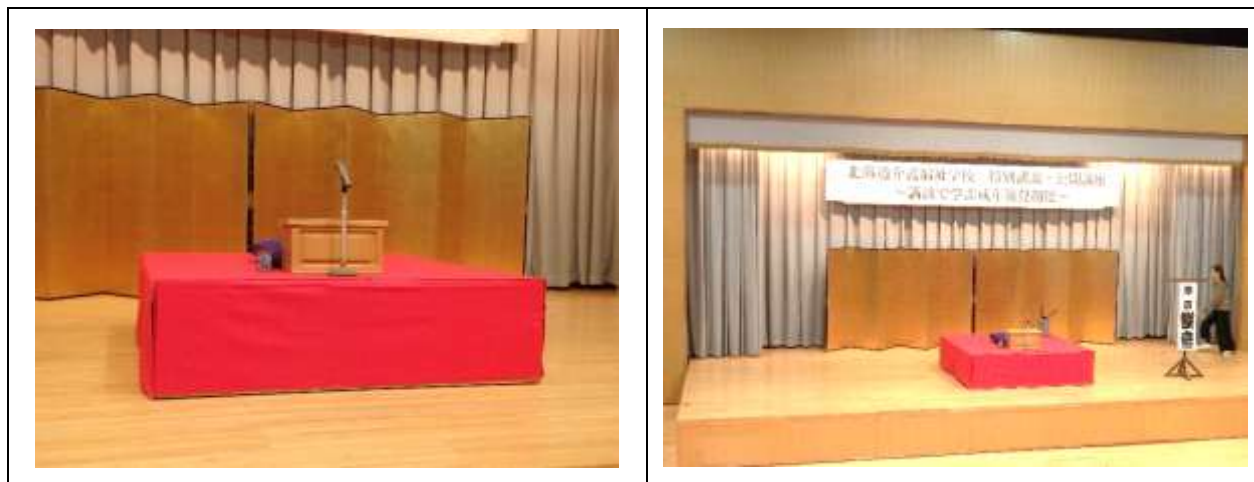
【タイトル】 栗山と福祉

～講談で学ぶ成年後見制度～

【授業概要】

日	時	令和 8 年 2 月 17 日（火） 13：30～15：10
場	所	栗山町カルチャープラザ Eki（大ホール）
対 象 者		北海道栗山高等学校 2 年生（49 名）＋教員 2 名 北海道介護福祉学校 1 年生（22 名）2 年生（22 名）、一般聴講者
担 当 者		講談師 神田 織音氏、 北海道介護福祉学校
テ ー マ		日本の伝統芸能である講談に触れながら、縮小社会の課題である判断能力が低下した高齢者・障害者等の権利行使を史実に基づいた物語で学ぶ。
スケジュール	13：10	受付開始
	13：25	開会・校長挨拶
	13：30	神田 織音氏 登場
		第一話 成年後見講談(法定後見の話)～認知症の老姉妹食べ物に～
		第二話 成年後見講談(私が母の後見人)
		第三話 桂川・介護殺人のお話
	15：00	終了
	15：10	アンケート回収
使 用 物 品		【北海道介護福祉学校備品等】 一文字、アンケート 120 枚 【カルチャープラザ Eki 借用備品】 演台 4 台、マイク 2 本、屏風 2 枚、毛氈、めくり台 【神田氏持参備品】 釈台(事前に郵送)、めくり、音響 CD

【会場】



【講談の様子】



【アンケート結果】（一部抜粋）

北海道介護福祉学校 公開講座アンケート
『講談で学ぶ成年後見制度』

2026.2.17

本日はご参加ありがとうございました。今後の参考にさせていただくため、アンケートのご協力をお願いいたします。

1. あなたについて教えてください（該当するものを）
☐ 高校生 ☐ 介護学生 ☐ 一般（社会人・地域の方・事業所関係の方）
☐ その他（ ）

2. 今日の講座をどのようにして知りましたか？（複数選択可）
☐ 学校からの案内 ☐ チラシ ☐ SNS ☐ 知人の紹介
☐ その他（ ）

3. 講座を通して成年後見制度について…
☐ とても大切な制度だと思った
☐ ある程度必要な制度だと思った
☐ 必要性はよくわからなかった
☐ 自分には関係ないと思った

4. 印象に残った内容や場面があれば教えてください
 ……………
 ……………
 ……………

5. 今日の講座を通して、成年後見制度や福祉について考えたこと・感じたことがあれば教えてください
 ……………
 ……………
 ……………

6. 本日の講座についての満足度を教えてください
☐ とても満足 ☐ 満足 ☐ ふつう ☐ やや不満 ☐ 不満

7. 今後、公開講座で聞いてみたい内容、取り組んでほしいテーマなどありましたら教えてください
 ……………
 ……………
 ……………

いただいた回答は、今後の公開講座の参考とさせていただきます。それ以外の目的には使用いたしません。
 ご協力ありがとうございました。

介護学生

【印象に残った内容・場面】

「第2話が印象的。親の介護を自分がすることを想像した」「生活保護申請が却下された場面で制度の課題を感じた」
 「介護殺人の話が心に残った」「“支援する側の環境も大切に”という言葉に救われた」「娘が母の成年後見人になる場面。笑顔が印象的だった」

高校生

【講座を通して考えたこと・感じたこと】

「自分が年をとっても制度を学んでおきたい」「国の制度の不備が悲劇を生んだと感じた」「福祉は国全体で協力して進めるべき」「制度はもっと広まるべき」

【タイトル】 栗山と福祉

～地域活動研究報告会聴講～

【授業概要】

日	時	令和 8 年 2 月 25 日（水）	13：30～15：30
場	所	栗山町カルチャープラザ Eki（大ホール）	
対	象	北海道栗山高等学校 2 年生（49 名）＋教員 2 名 北海道介護福祉学校 1 年生（22 名）、一般聴講者	
担	当	北海道介護福祉学校 学校長、専任教員 4 名 2 年生 22 名	
テ	ー	マ 町立の専門学校で行っている地域とのかかわりや、その内容、学生の学びについて知る。	
スケジュール	13：00	受付開始	
	13：30	開会・校長挨拶	
	13：40	報告① ヘルスケアグループ	
	14：10	報告② 生活支援グループ	
	14：40	休憩	
	14：50	報告③ 地域課題解決グループ	
	15：20	全体の感想・まとめ	
	15：30	閉会	
使 用 物 品	【北海道介護福祉学校備品等】 配布資料 120 部 アンケート 120 枚 PC 【カルチャープラザ Eki 借用備品】 マイク 2 本		

【報告会の様子】



ヘルスケアグループ



生活支援グループ



地域課題解決グループ



【アンケート結果】（一部抜粋）

高校生（49 名分）

グループ名	非常に満足	満足	どちらともいえない	不満	非常に不満
ヘルスケア	87%	11%	2%	0%	0%
生活支援	95%	5%	0%	0%	0%
地域課題解決	98%	2%	0%	0%	0%

<ヘルスケアグループ>

「フレイル」という言葉を初めて知ったという声が多数あり、学びの新鮮さが印象的だった。自分にも関係ある内容で興味深かった、介護に詳しくない自分でも理解できた等、学生の学びを高校生なりに捉えてくれた旨の自由記載が多かった。

<生活支援グループ>

「つかめーる」「いしリス」などのアイデアに対して、「実用的で面白い」「発想がすごい」といった内容が多数。実演があったことで理解しやすかった、自分も使ってみたいなど、実用性に注目が集まっていた。

<地域課題解決グループ>

スポーツを通じた交流というテーマに対して、「障がいのある人と自然に関われるのが良い」という声が多かった。健常者同士でも大切なことだと気付いた、相互理解が深まる活動だと思った等、共生や多様性への気付きが印象に残ったようだった。

1. 地域活動研究とは

地域には様々な人が生活し、誰にでも暮らしや課題、希望があります。「地域活動研究」では、地域に暮らす人の生活実態に触れ、個別または地域固有の課題を知ることにより、幅広い視点と次世代の専門職に求められる資質を持った介護福祉士を育成する本校の独自カリキュラムです。学びのフィールドを地域に求め、そこにある社会資源を活用し、かつ少人数で授業を展開します。学生は所属するゼミを決め、介護の専門職を目指す学生という立場で社会資源の調査、地域住民へのアンケート、ヒアリング調査、実証などを行います。

2. ①ヘルスケアグループ（看護系教員が担当）

地域との交流の機会をもつことを継続し、今年度はフレイルに着目し活動。町民とのふれ合いやアンケート調査から知り得た暮らしの現状、健康に対する意識や行動について調査結果をもとに、より良い生活の継続に向け考察した内容を発表。

②生活支援グループ（介護系教員が担当）

介護場面での身体的な負荷を軽減し、利用者の自立を促し、意思表示を助けることができるツールの制作を検討。栗山町にあるものづくり工房「ファブラボ栗山」ご協力のもと“ものづくり”を通して考えた介護力の可能性について発表。

③地域問題解決グループ（社会福祉系教員が担当）

スポーツを通して障がいがある人との交流を図り、障がいのある人と、その周囲にいる人、家族や支援者等にインタビューすることで、障がいという視点からみた共生社会について考えた。出会いの中で学んだこと、気づいたことなどを発表。

【タイトル】 栗山と福祉

～キャリア形成支援講座～

【授業概要】

日	時	令和8年2月26日（木） 10:45～12:10
場	所	北海道介護福祉学校 205 教室
対	象	北海道栗山高等学校2年生（49名）＋教員2名 北海道介護福祉学校1年生（22名）
担	当	北海道介護福祉学校 校長、37期生4名
テ	ー	自身の進路選択とキャリア形成・国家試験に向けた取り組み
マ	ス	スケジュール
	10:45	講義
	11:10	介護学生の取り組み(4名) ・勉強の仕方 ・普段の姿勢 ・息抜きの仕方
	12:00	講義・まとめ
	12:10	終了
使	用	物
品		【北海道介護福祉学校備品等】 マイク モニター PC

【資料一部抜粋】

【あと1年をどのように過ごすか】

進学・就職・人学試験	勉強・活動	学生生活・生活
・試験に向けての取り組み ・得意科目の学習の振り返り ・得意科目の学習の振り返り ・得意科目の学習の振り返り ・得意科目の学習の振り返り ・得意科目の学習の振り返り ・得意科目の学習の振り返り	・就職先を調査する時に考えること ・就職試験に向けた準備 ・進学・編入学に向けて ・将来的な希望（資格取得などの目標）	・就職先（家庭での役割を学ぶ） ・アルバイト ・サークル活動 ・ボランティア活動 ・ボランティア活動 ・ボランティア活動

これらをどのようにして実行させるか

【今の皆さんに共通する気になることは…】

- ・進級できるか否か
- ・将来、何になりたいのか
- ・今後の進路選択、就職活動、大学入学・編入…
- ・就職試験・大学入試・国家試験…
- ・今後の勉強、趣味、遊びとの両立など

気になっていることは、人によって違う

【主に取り組む内容】

- ・自分を客観視する
- ・中長期スケジュールを立てる
- ・資料を整理する
- ・得意・不得意分野の整理
- ・関連づけた考察の方法
- ・その他

【授業の様子】

